

新刊紹介



看護のための教育学 第2版

編著 中井俊樹・小林忠資
発行 医学書院
定価 2530円(本体2300円+税10%)

看護学生向け教育学テキストの改訂版。学生が看護師となり、臨床で教育に携わるようになったときにも役立つことに重きを置いている。教育をめぐる状況の変化や著者らの実践経験をふまえ、「リフレクションを促す技法」の章を新設、「コーチングの技法」をまとめ直し、「学習の原理」を大幅に書き改めた。



「チーム医療」とは何か 第2版

患者・利用者本位のアプローチに向けて

著 細田満和子
発行 日本看護協会出版会
定価 2750円(本体2500円+税10%)

臨床現場でのフィールドワークをもとに、変化を続ける「チーム医療」の現実を明らかにする。チーム医療を構成する4つの要素とチーム医療がうまくいかない6つの困難を、インタビューや事例をもとに解明。第2版では医療だけでなく、地域や福祉も含めた多職種連携、さらに当事者参画の視点も加わった。



東大教授、若天性アルツハイマーになる

著 若井克子
発行 講談社
定価 1540円(本体1400円+税10%)

元脳外科医で東大の教授でもあった夫が若天性認知症になった。長い苦悩を経て病を受け入れ、新たな道へ踏み出した夫婦の軌跡を、妻が克明に描き出す。妻には、夫は地位も知識も言葉さえも失ったことで「あるがまま」を得て、人生の本質にふれたように感じられるのだった。



「還る家」はありますか

街角カウンセラーの子育て物語

著 富田富士也
発行 信濃毎日新聞社
定価 1430円(本体1300円+税10%)

子どもに心の危機が起きたとき、ただ話を聞き、ただうなずく。見た目の努力は評価せず、存在していることを「そのまんまでもいいんだよ」と絶対肯定する。著者はこの人間関係を「還る家」と呼び、30年以上相談活動を続けている。本書は、事例や経験を綴った新聞のコラムから“時代を超えて参考になる”100本を厳選した。

